京城日報　夕刊

龍山陸軍病院に戰傷勇士を見舞ふ

午後七時から總督招待宴に出席

川岸中將

龍山陸軍病院を見舞ふ川岸中將

龍山に第一夜を明かした川岸中將は、十日午前九時、京城神社に參拜、奉告、同三十分、昌徳宮に御機嫌を奉伺して後、午前十時卅分龍山陸軍病院を訪問、今井軍醫の案内で戰傷病者を親しく見舞つた、將軍は院長室に小憩、同少佐から入院患者の概況を聽取して後、第二外科病室に入り重傷患者を慰問した、此の病室では將軍は

「諸君の戰功に對しては感謝を惜しまぬが、諸君は名譽ある戰傷病患者の身分を忘れてはならぬ、軍人の本分を全うし折角療養再び勇ましく第一線へ行つて貰ひたい、野戰病院の事を思へば此處はいろ〳〵治療にも無理があつた事と思ふ

と或は床に端坐、或は五體不自由の勇士を一人々々に心からなる激勵の言葉を與へて將校病室を訪ひ、此處でも山西南部戰線の肉彈勇士松尾歩兵少尉その他の將校にも懇ろな慰問の言葉を殘して、銃後婦人の赤誠になる木の香も新しい愛國館に入り、白衣の勇士を前に戰場生々しい戰況や第一線將士の勇戰奮鬪振りを新たに物語つて後、勇士の手工藝作品を觀覽して同十一時五十分病院を出發、正午からは、司令部高等官及び各部隊長以上夫人三十餘名を招待、午餐を共にしながら銃後女性の戰時認識を中心に歡談時節を過して、午後一時陣歿勇士分骨安置寺院東西兩本願寺及び大谷寺に參拜、午後四時からは在城官民を朝鮮ホテルに招待お茶の會を開催、一場の挨拶を試み同夜七時南總督招待の官邸における歡迎晩餐會に臨み第二日の日程を恙なく終つた

陸軍省局は一朝有事の際に對處するため軍需動員計畫につき着々準備を進めてゐるが、陸軍大臣ルイス・ジョンソン氏は九日軍需品の製造に萬全を期するため來る九月一日までに民間軍需工場と密接な連絡をとり、軍需品の製造に萬全を期さねばならぬとの見地から、民間軍需工場指導訓練に要する教育費として一千萬弗を支出することになり、これに要する經費を九月一日までに一千萬弗支出すべく決定した

共產黨と戰ふために世界戰爭も恐れぬ！

ム首相の强硬決意

【ローマ九日同盟】ムッソリーニ首相は九日ローマで發表されたファシスト評議會活動報告書に序文を寄せ、スペイン内亂に言及しファッシズムは共產黨と戰ふために世界戰爭も恐れるものではないと强硬決意を披瀝左の如く述べてゐるスペインではフランコ軍は遂に勝利を收めてゐる、これこそボルシェヴィキズム勢力の消滅の原則を有するファシスト勢力の國際的前途を示すものにほからない、この勝利戰爭はヨーロッパ並に世界の規模で行はれるか否か豫斷されない、ファッシズムは世界諸大陸で決する闘爭を辭退するものではないことを斷言する（寫眞はムッソリーニ首相）

我○○部隊敗敵を猛追

相互の抑留漁船釋放方を申出づ

蘇聯側から本府に

スターリンの政府の數次の嚴を逃れたゲ・ペ・ウ極東長官リュシコフ大將の滿洲國境事件以來の蘇聯極東地方は遂に空氣硬り、間島方面の滿蘇國境或は沿海州方面漁場に於ても從來の如き蘇聯側の挑發的行動も最近で鳴りを鎭めてゐる觀を呈してゐるが此程外務省を通じて總督府に對し相互の抑留漁船の無條件釋放方を申出て來た、即ち現在朝鮮側の漁船にして蘇聯側に抑留されてゐるもの三隻で、一方蘇聯漁撈機船二隻は成北沿岸に漂着して目下成北道當局の取調べを受けてゐるが蘇聯側では朝鮮漁船三隻を釋放するから蘇聯漁船二隻も無條件で釋放されたいとの申出である、從來かくの如く蘇聯に漂着した朝鮮漁船は蘇聯側から釋放を申出たことは絶無であり、リュシコフ大將脱出事件以來の蘇聯極東當局の動向を窺知し得るものとして注目されてゐる、しかし總督府としては漂着機船にと結論を待つてゐる

防共專任官を交換駐在

伊へは猪俣敬次郎氏
獨へは重成氏に内定

【東京電話】内務省警保局では日獨伊三國防共協定の締結を契機とし、歐亞を結ぶコミンテルン赤化方策防衛の實行方法について研究中であつたが、防共協定各國の警察當局を通じて防衛に萬全を期することになり、共產黨關係の專任官を派遣すること

鐵鋼工作物規則改正

十五日より施行

山田女史入城

英、加兩國空軍提携

勤勞報國團

長湍にも生る

天地玄黃

蔣の軍事顧問懇請

フランスも拒絶

蘇聯のみを只一の賴りとす

維新政府も當局談發表

將兵の士氣正に沖天の槪あり

龍山師團から發表

河南省魚台占領

湖口占領後の漢口安全性を覆す

蔣政權への影響甚大

黃河々畔にコレラ發生

【開封十日同盟】今次我軍の黃河決潰の暴擧は各方面に甚大な損害を與へ住民の生命財產を喪失せしめたが、九日からコレラの流行を防ぐため西北兩門を封鎖し、一般の通行を禁止し、我軍側の手で市民に豫防注射を行ひ蔓延防止に大童になつてゐる

ブジョンヌイ元帥も逮捕されたか

【ワルソー九日同盟】モスコー軍管區司令官ブジョンヌイ元帥はかねてよりスターリン書記長に睨まれ不遇を傳へられてゐたが、九日ワルソーに達した情報によればブジョンヌイ元帥の右腕と頼むモスコー軍管區政治委員サボロジエノ氏が最近反革命活動の廉で逮捕されて以來、元帥は公式レセプションに姿を見せず、公共機關の建物から元帥の肖像が續々撤去されてゐる、これらの點から見てブジョンヌイ元帥も赤禍清の犠牲となつて逮捕されたのではないかとの噂が高い

米產業動員計畫着々準備を進む

【ワシントン九日同盟】

明日朝刊休み

快男子（83）

大島伯鶴演　今村恒美畫

實情調査

小林校長は、石田といふ受持教師を校長室へ呼んで、本多照彦、木村義夫兩少年のことを尋ねると少しも知らんといふ。

小『その木村といふ生徒は缺席してゐるのでせう』

石『今日で四日ほど缺席して居ります』

小『理由を附して缺席屆でも出てゐますか』

石『何にも口頭でも、書面でも缺席の屆けはありませぬ』

小『それは石田さんいかんですね四日も缺席してゐたら、ちよつと小使にでも見せにやつたらどうです、見せにやつたら、さういふ實情ももつと早く分つた筈です、仁科君が、本多といふ生徒に聞いて初めて事情が分つたのです、木村といふ子も感心ぢやが、本多といふ子も、實に見上げた子ぢや、それを氣が附かんでゐては困るね』

石『ハッ、恐縮です』

その時に遊び休みの時間も切れたので、カン／＼カン／＼と鐘が鳴る。

小『では今日放課後に、三人して木村義夫の家へ行つて、實情を見ることにするから、そのつもりで……』

『ハア、承知しました』

仁科と、石田の二人は校長室を出る。

仁『さア本多君、食べたかね、明日ッからは辨當を空にせんでもいゝやうにしてやる、さア運動場へ行きたまへ』

本多少年は喜んで、運動場へ驅けて行つて、自分の列の中に加はつて教室へ入りました。

その日の放課後、小林校長は、石田文太郎といふ受持教師と、仁科教師の仁科半九郎の二人を連れて、鳥小學校から程近い梅田角田町の木村義夫少年の家を訪ねました。

貧乏長屋の一隅、父は木村利助といつて人力車夫を業としてゐて、妻は去年病死して今は義夫少年と二人きり、利助は病弱、義夫少年は人力車に轢かれて、怪我をして、父子枕をならべて床に就いて、薬を呑めず、僅に本多少年の、運んでくれる辨當に依つて、飢を凌いでゐたといふ事情が分りました。

校長も仁科も涙を流して、父子を慰めてその日は歸りましたが、翌朝學校へ來ると、教師全員から幾らかづゝの金を醵出して、それを木村父子に贈りましたから木村父子の喜びは一通りではありませぬ。

その内に生徒は登校する。始業の時間になつて、カン／＼カンカンと鐘が鳴ると、校長は生徒を殘らず運動場に集めて、高いところに上つて、木村少年の孝行と、本多少年の友情を話をして、

小『皆さんもこの二人のやうな、えらい生徒にならなければなりませぬよ、さうして同級生の者は、これから決して本多さんのことを、空辨などといつて、からかつてはいけませんよ』

と訓示を與へて、台から下りると、全生徒は小さい頭にも感激したものと見えて、拍手喝采。同級生の者は本多少年を取巻いて、

『本多さん、昨日はからかつて御免ね』

『もう空辨なんていはないから堪忍してね、僕もあやまらア』

とからかつた意地惡連中もあやまるといふやうな有樣。

朝の一時間が過ぎて、生徒たちは運動場へ出て、嬉々として戲れて居ります中に本多少年の姿が見えない。仁科はどうしたのかと思ひながら、中等科三級の石田教師の受持の教室の前を通つて、何氣なく中を見ると、石田教師が、本多少年を前へ立たせて、何か叱つてゐる、本多少年は涙を流してゐる樣子です。

石『あゝいふことがあつたら、なぜ仁科先生などに話をせん先に、私に話をせんのだね、怪しからんぢやないか、その爲に僕は校長さんに叱られたぢやないか、え、本多ッ、泣いてゐるぢや分らん』

この聲が耳に入ると、仁科の眉はピリ／＼と動いた。ツカ／＼とその教室へ入ると、

仁『オイ石田君ッ』とどなつた。